



火 災

ンの場合は他の住戸に延焼する可能性が少ないので、無理をせずに消防隊を待った方がよい場合もあることは心得ておいてください。

下の階で火災が発生した場合

あなたの住戸の下の方の階で火災が発生した場合も、基本的な行動は「同一階」の場合と同様です。ただ、延焼してくる可能性は、同一階や上の階で火災が発生した場合よりも高いので、できるだけ早くベランダの可燃物を住戸内に入れて窓を閉めてしまうことが先決です。また住戸内でも、可燃物はなるべく窓際から遠ざける方がよいで



しょう。

階段室型のマンションの場合は、直下の住戸で火災が発生し玄関を開け放されてしまうと、階段を使って逃げるのが難しくなります。その場合にはベランダ伝いに一戸二戸分避難して、そこから別の階段を使って逃げるようになります。

管理人や消防への通報は火災階以下の階の住民がやってくれるはず（消防計画にそう書いておく必要があります）ですから、あなたの行動としては優先順位は低いと考え、とにかくできるだけ早く避難を始める方がよいでしょう。

上の階で火災が発生した場合

あなたの住戸の上の方の階で火災が発生した場合も、基本パターンは同一階の場合と同じですが、あなたの住戸に延焼して来る可能性やあなたが逃げ遅れる危険性は低いので、あわてて避難する必要はありません。

むしろ、消火のための水が上階から漏れ落ちてくる可能性が高いので、濡

れては困る物にビニールシートなどをかける作業を徹底する必要があります。



適マーク制度を活用しよう

ホテルや旅館のフロントに掲げられている「適マーク」は、もうおなじみになりました。「適マーク」は消防署が出す「安全のお墨つき」だという程度に理解している方が多いと思いますが、もう少し正確に知っておくといざと言うときも安心です。



適マークは一種の情報公開制度

適マークの制度は、昭和五年の川治プリンスホテルの火災をきっかけに始まりました。川治プリンスホテルは、防火管理者がいないとか訓練を行っていないなどという消防法違反の建築物で、地元の消防本部も査察などそのことを承知しており、再三改善指導を行っていました。あの火災では、死者四五人という旅館・ホテル火災としては戦後最大の犠牲者が出ましたので、当時、「消防機関は違反建築物についての情報を公開すべきだ」という議論がなされました。しかし、ただ「違反だ」と言っただけではどの程度危険な建物なのかわかりません。どのようにして情報公開をすれば一般の利用者に役立ててもらえるか、という観点から検討

●適マークと適継続章を安全の目やすに

が行われた結果できたのが「適マーク」制度なのです。



適マーク制度の仕組み

適マークは、三階建て以上の旅館・ホテル等について、
① スプリンクラーや自動火災報知設備などの消防用設備などが消防法に従って適切に設置されているか



火 災

② 防火管理者が定められ、消防計画が作られ、訓練も行われるなど、防火管理が消防法に従って適切に行われているか

③ 階段部分に区画があるなど、建築構造面で一定のレベルに達しているか

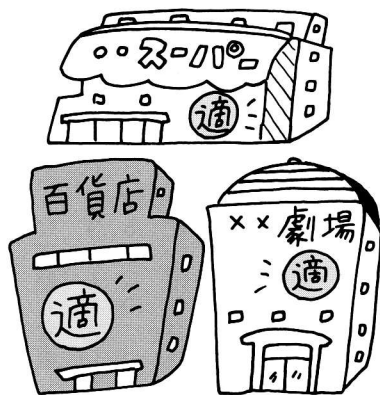
④ 構造や設備によって定まる一定の時間内に、従業員が所定の避難誘導を行うことができるか

などからなる二八項目について毎年消防機関がチェックを行い、そのすべてについて一定の基準を満たしている場合に交付されることになっています。

この二八項目は、消防法や建築基準法の中でも特に人命に直結すると考えられるものが選ばれていますので、一つでも基準を満たさなければ適マークは交付されません。

適マークは、当初は旅館・ホテルを中心に交付されていましたが、現在では百貨店、スーパー、劇場などにも交付されています。

適継続章の数に注意



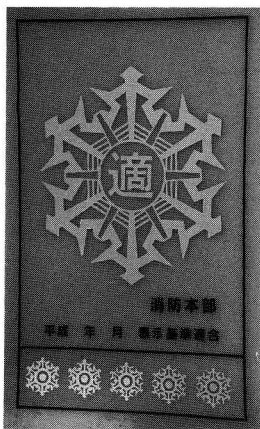
適マークが交付されている建物でも、避難階段に可燃物を放置してあったり、誤報が多いから、と言って自動

火災報知設備のスイッチを切ってしまったりするものがあります。このような違反は、検査の前には是正されていますから消防でもなかなかわかりませんが、悪質な場合は違反が繰り返されてしまいます。抜き打ちの検査などでそのような違反が繰り返されていることがわかった場合は、適切な改善措置がとられるまで、適マークは消防機関に返還されることになっています。

管理ミスによって火災が発生してしまつた場合なども同様です。

適マークの下の方に、小さなマークが幾つかついています。このマークは「適継続章」と言って、適マークが（返還されることなく）二年間継続して交付されていると一つ付くことになっています。適マークに適継続章が三つ付いていれば、その建物は少なくとも六年間は継続して、適マークの基準を満たしているだけでなく、繰り返し違反をせず火災も起こしていない、ということになるわけです。

適継続章の数の多い建物の方が安心できる、と言ってもよいでしょう。



適マーク

ホテル火災に備えて(事前の準備が大切)

●寝る前に必ず避難経路を確認

旅先のホテルや旅館で火災にあうと大変です。せっかくの旅行が台無しになるだけでなく、運が悪いと命を落とすことにもなりかねません。

宿泊は適マークのあるホテルで

適マークがあるホテルだからといって絶対に安全と言い切れるわけではありませんが、一定の基準を満たしていることは消防機関でチェック済みですから、やはり安心できます。

最近できたビジネスホテルなどは、全体計画が単純で防災設備なども新しい法令に適合していますから、火災が発生しても大事故につながりにくくなっています。スプリングラーの設置が義務づけられている延面積六、〇〇

〇平方メートル以上の大型ホテルなら

なお安全です。

ところが古い温泉旅館などは、増築、改築を重ねて全体が迷路のようになっているものが多い上に、建築構造などが古い防火基準に準拠して造られていますから、火災が発生したとき対応を間違えると死亡事故につながりやすいのです。

「適マーク制度を活用しよう」(二二八頁参照)でも述べたように、適マークの基準はこのような実態も考慮した上で定められていますから、古い旅館などでも適マークがあるものについては、一定水準の安全性が確保されるようになっています。

宿泊の予約をする場合は、その旅館やホテルに適マークが交付されているかどうかを必ず確かめてください。そして、適マークが交付されていないから

ば、その場で「適マークがないから」とはつきり言って、予約を取り消すのも一つの方法です。

旅館・ホテルの側では、このようなキャンセルが続けばどうしても適マークを取らなければならなくなります。そのためには、消防法などの違反をなくすことはもちろん、避難路の整備や防火戸の設置などの建築構造上の改善を行ったり、防火訓練を熱心に繰り返したりして、適マークの基準を満たさなければならなくなります。あなたのキャンセルにより、日本全体の宿泊施設の防火水準が上がっていくことになるのです。

なお、適マークは二階建て以下のもので、小規模な民宿・ペンション等は対象外になっていますので注意してください。



火 災

旅館・ホテルにチェックインしたら、まず避難路を確認してください。しっかりした所なら避難経路図が部屋の中に備えてありますから、それを確認することは当然ですが、それだけでは十分とは言えません。

ベランダはあるか

火災時の避難路としてベランダほど頼りになるものではありません。あなたの部屋から直接ベランダに出ることができ、そのベランダが避難経路につながっていたら、火災になってもあなた



《対象外!!》

避難路を確認する

避難路は必ず複数確認しておく

の安全は保証されている、と言ってもよいくらいです。また、たとえ避難路につながっていないなくても、ベランダはいざと言うときの退避先として極めて有効です。

一方でベランダがあると、防犯やプライバシーの問題にも注意しなくてはなりません。とにかく、部屋に通されたら、まずベランダの有無とその構造を確認することが大切です。

予定した避難路が一つだと、煙で充滿して使えない、ということもありま



す。そんなことのないように、必ず複数の避難路を確認しておく方がよいでしょう。法令上からも、あなたの部屋から必ず複数の方向に避難できるようになっているはずですよ。

この場合、どちらの避難ルートも、必ず非常口のところまで行って確かめてみることを大切です。この時、非常口のドアが施錠されていて開かない、などということがないように、開けられるものは実際に開けて確かめてください。

また、あなたの部屋から非常口まで幾つのドアがあるか確認しておくことも有効です。火災時に煙が充滿していたら、廊下を這って避難しなければならなくなることもあります。その時ドアの数を覚えておけば、非常口まであとどのくらいかわかりますから、助かるチャンスも増えるのです。

ホテルで実際に火災にあつたら

万一旅館やホテルで火災にあつてしまつたら、まず安全なルートで避難することを考えます。それが不可能なら、籠城や避難器具による避難を考えます。サバイバルは、情報と知識によつて可能になるのです。

ドアやノブの温度で外の様子を探る

寝入りばなに非常放送や電話で火災を知らされたあなた。寝ぼけまなこでいきなり廊下に飛び出す、ということになりそうですが、ちょっと待つてください。廊下は火の海、ということだつてあるかも知れません。いきなりドアを開けないで、まず、ドアやノブに触つて温度を確かめます。熱くなければ外はまだ燃えていません。ドアを細目に開けて煙の様子を確認します。これら

の行動を行いながら、非常放送や従業員の避難誘導に注意していることは当然です。何階が燃えているのか、安全な方向はどちらか……。情報こそあなたの命を救う最善の手段となるのです。

避難はキーを持って

廊下に火も煙も見えなければ、火災はあなたの部屋には迫っていません。落ちついて身支度をし、タオルを水に

ひたして固く絞り、貴重品と（もしあれば）懐中電灯と部屋のキーを持って避難します。部屋のキーを持つのは、避難路が途中で絶たれていて他に方法がなければ部屋に戻つて籠城しなければならなくなることがあるからです。オートロックで自分の部屋を開め出されたのでは話になりません。

避難ルートは、最も安全性が高そうな

● 情報と知識が生き残りのかぎ



ルートを選びます。ベランダ経由の避難ルートがあるのなら、迷わずベランダ経由を選びます。廊下経由なら、非常口までの距離が多少あつても、外階段に通じているルートの方が安全性が高いのです。

廊下に煙が充満していても、「脱出してみようか」と思える程度なら避難を試みます。固く絞った濡れタオルを鼻と口に当て、姿勢を低くし、場合によつ